〔オキソリニック酸水和剤〕

スターナ®水和剤

農林水産省登録　第１７２０３号
性　　状：類白色水和性粉末　45μm以下
毒　　性：普通物
危 険 物：—
有効年限：４　年
包　　装：100ｇ×100袋、500ｇ×20袋

有効成分：オキソリニック酸 ……20.0%

殺菌剤分類　31

農薬ガイドの適用表内（＊）および各項目については、i-農力サイトの「製品情報」や「農薬ガイドを見る」から、「農薬ガイドの見方」をご参照ください。
本剤の最新情報：こちらの２次元バーコードを読み取ると i-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

〔適用と使用法〕

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲	もみ枯細菌病	20倍	—	浸種前	1回	10分間種子浸漬
		200倍				5～24時間種子浸漬
		400倍				24時間種子浸漬
		400～800倍				48～72時間種子浸漬
		乾燥種子重量の0.3～0.5%				種子粉衣（湿粉衣）
		20倍		浸種後		10分間種子浸漬
		200倍				５時間種子浸漬
		7.5倍	乾燥種籾1kg当り30㎖	浸種前		吹付け処理（種子消毒機使用）又は塗沫処理
	苗立枯細菌病	20倍	—	浸種後		10分間種子浸漬
		200倍		浸種前		24時間種子浸漬
		乾燥種子重量の0.5%				種子粉衣（湿粉衣）
	褐条病	20倍		浸種後		10分間種子浸漬
		200倍		浸種前		24時間種子浸漬
		7.5倍	乾燥種籾1kg当り30㎖			吹付け処理（種子消毒機使用）又は塗沫処理
はくさいキャベツ	軟腐病・黒斑細菌病	1000倍	100～300ℓ	7日前	３回	散布
たまねぎ	りん片腐敗病				５回	
	軟腐病				本　剤：５回 オキソリニック酸：５回（#1）	
ばれいしょ						
未成熟とうもろこし	褐色腐敗病			前日	３回	
こんにゃく	腐敗病			14日前	本　剤：５回 オキソリニック酸：６回（#2）	

色掛けは2024年10月16日適用拡大

作物名	適用病害名	希釈倍数	10アール当り使用液量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
こんにゃく	腐敗病	30～100倍	種いも1㎡当り150㎖	植付前	本剤：1回 オキソリニック酸：6回（#2）	種いも吹き付け処理
たばこ	空胴病	1000～1500倍	25～180ℓ	10日前	2回	散布
茶	赤焼病	1000倍	200～400ℓ	摘採7日前まで		
にんじん	軟腐病 斑点細菌病		100～300ℓ	7日前	3回	
だいこん	軟腐病			14日前	5回	
カリフラワー		2000倍			2回	
ブロッコリー	黒斑細菌病 花蕾腐敗病					
はなっこりー	軟腐病			前日		
ピーマン					3回	
レタス	軟腐病 斑点細菌病 腐敗病			7日前	2回	
非結球レタス				14日前		
トレビス	腐敗病			3日前		
セルリー	軟腐病			14日前	3回	
ねぎ				7日前		
らっきょう		1000倍				
チンゲンサイ		2000倍			2回	
さんとうさい						
エンダイブ				14日前		
パセリ						
アスパラガス			100～500ℓ	前日		
ズッキーニ	軟腐細菌病	1000倍	100～300ℓ		3回	
なし	枝枯細菌病		200～700ℓ	45日前		
もも ネクタリン	せん孔細菌病			7日前		
小粒核果類（すももを除く）	かいよう病					
すもも	黒斑病					
きく	斑点細菌病		100～300ℓ	—	5回	
カラー	軟腐病	30倍	球根100kg当り1～3ℓ	定植前	1回	球根吹き付け処理

#1：種いも浸漬は１回
#2：種いもへの吹き付けは１回、植付後は５回

色掛けは2024年10月16日適用拡大

⚠効果・薬害等の注意

●使用量に合わせ薬液を調製し、使いきる。
●浸漬処理の場合は、籾と薬液の容量比は１：１以上とし、種籾はサラン網など粗目の袋を用い、薬液処理時によくゆする。
●長時間浸漬の場合は、浸漬処理中に１～２回攪拌する。
●粉衣処理は付着をよくするため、湿粉衣とする。
●薬液処理した種籾は、風乾後、水洗いせずに浸種する。
●消毒後の浸種は水槽で行い、水の交換は原則として初めの２日間は行わない。
その後水を換える場合は静かに行う。
●稲に吹付け処理する場合、種子消毒機を使用し、種籾に均一に付着させて乾燥する。
また、塗沫処理の場合は、適当な容器内で種籾を攪拌しながら、薬液を滴下するなどして、種籾に均一に付着させる。
●カラーに吹き付け処理する場合、噴霧器を使用し、球根全体に薬液を付着させる。
また、薬剤処理後、風乾してから球根を定植する。
●野菜類の細菌病に使用する場合、多発条件下では効果が劣る例もみられるので注意する。
●適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤をはじめて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用する。
●本剤の使用に当っては、使用量、使用時期、使用方法を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合は、病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

⚠安全使用上の注意

●誤飲、誤食などのないよう注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には、直ちに医師の手当を受ける。
●本剤は眼に対して弱い刺激性があるので眼に入らないよう注意する。
眼に入った場合には直ちに水洗する。
●使用の際は農薬用マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
また散布液を吸い込んだり浴びたりしないよう注意し、作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
●浸漬後の薬液は、河川等に流さず、水産動植物に影響を与えないよう適切に処理する。
●直射日光をさけ、なるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

「農薬ガイドの見方（https://www.i-nouryoku.com/prod/search/農薬ガイドの見方.pdf)」の「３．注意事項：(1)、(2)、(3)、(4)－C」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

●作用機作は細菌のＤＮＡの複製阻害によるものと考えられています。
●グラム陰性菌に効果がありますがグラム陽性菌には効果が期待できません。
●予防的な散布で効果があります。
●散布のほかに、稲の種子消毒（種子浸漬、種子粉衣、吹き付け又は塗沫)、こんにゃくの種芋消毒に使えます。